

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	兼政 隆志
評価者	組織	文化振興課	職	次長兼課長	氏名	兼政 隆志

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	新県立図書館の賑わい創出	県立図書館入館者数	人	1,000,000 (R5)	122,689 (R2)	781,318 (R4)	B
施策2	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	437,371 (R3)	588,409 (R4)	D
施策3	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	58,948 (R3)	70,527 (R4)	D

(※R4年度の数字は開館日のR4.7.16～R5.3.31の数字)

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
					(年度)	(年度)							
施策1	課題1	新たな賑わい拠点としての新県立図書館の魅力創出	県立図書館入館者数	人	1,000,000 (R5)	122,689 (R2)	781,318 (R4)	1 新県立図書館の賑わい創出に向けた文化交流推進事業費	一般県民	32,000	28,974	B	継続
			貴重資料・公文書のデジタル画像新規公開数(単年度)	点	320 (R5)	— (R3)	135 (R4)	2 新県立図書館デジタルアーカイブ推進費	一般県民	8,000	7,201	C	継続
施策2	課題1	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	437,371 (R3)	588,409 (R4)	3 加賀百万石文化めぐり開催費	一般県民	25,600	22,600	B	縮小
							4 ミュージアムツーリズム推進事業費	一般県民	3,000	3,000	B	見直し	
							5 明治・大正レトロ文化発信拠点整備費	一般県民	10,000	6,636	B	継続	
							6 最先端の映像技術を活用した文化資源の魅力発信事業費	一般県民	65,000	64,012	B	継続	
					7 美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	30,425	25,809	B	継続			
					8 歴史博物館特別展示費	一般県民	35,003	29,323	B	継続			
					9 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催費	一般県民	58,000	88,000	B	継続			
					10 伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	5,000	7,300	C	継続			
	課題2	多彩な文化イベントの開催支援	能楽堂入館者数	人	54,000 (R4)	32,384 (R3)	36,887 (R4)	11 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	12,110	11,740	C	継続
いしかわ文化の日県民入場無料施設の入館者数			人	45,000 (R4)	28,477 (R3)	44,855 (R4)	12 いしかわ文化の日・いしかわ文化推進期間普及啓発事業費	一般県民	4,100	4,100	B	休止	
いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数			人	80,000 (R4)	23,964 (R3)	71,209 (R4)							
音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			人	112,000 (R4)	58,948 (R3)	70,527 (R4)							

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	兼政 隆志
評価者	組織	文化振興課	職	次長兼課長	氏名	兼政 隆志

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	新県立図書館の賑わい創出	県立図書館入館者数	人	1,000,000 (R5)	122,689 (R2)	781,318 (R4)	B
施策2	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	437,371 (R3)	588,409 (R4)	D
施策3	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	58,948 (R3)	70,527 (R4)	D

(※R4年度の数字は開館日のR4.7.16～R5.3.31の数字)

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価			
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性		
					(年度)	(年度)								
施策3	課題1	いしかわの優れた文化の裾野拡大	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,200 (R4)	5,401 (R3)	9,067 (R4)	13	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	一般県民	80,000	62,754	A	継続
								14	子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	2,300	B	縮小
								15	子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	4,582	4,582	B	継続
								16	県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	3,000	B	継続
								17	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	920	B	継続
			兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	437,371 (R3)	588,409 (R4)	18	いしかわジュニアアートステージ開催費	高校生以下	7,900	7,900	B	休止
								19	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	10,000	9,670	B	休止
			音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	58,948 (R3)	70,527 (R4)	再	いしかわジュニアアートステージ開催費	高校生以下	7,900	7,900	B	休止
								再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	10,000	9,670	B	休止
			県立美術館入館者数	人	472,500 (R4)	260,199 (R3)	334,571 (R4)	20	文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	1,140	992	B	縮小
			いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	300 (R4)	- (R3)	1,736 (R4)	21	いしかわミュージックアカデミー開催費	一般県民	19,540	19,540	A	継続
			音楽堂入場者数	人	258,000 (R4)	114,649 (R3)	157,274 (R4)	22	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	拡大
								23	地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
再	子どものための音楽文化推進事業費	小学生						2,300	2,300	B	縮小			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	新県立図書館の賑わい創出に向けた文化交流推進事業費	事業開始年度	R4	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	新石川県立図書館基本構想		

作成者	組 織	図書館			
	職・氏名	利用推進課 課長 小石 宗明			
	電話番号	076 - 223 - 9588 内線			

事業の背景・目的

今年7月開館の新県立図書館において、様々な本や、人、モノ、情報などと出会う体験・イベントを、年間を通じて切れ目なく提供することで、新たな賑わい拠点として、多くの県民に利用いただける図書館を目指す。

- 事業の概要**
- ① 開館式典や記念イベントの実施
 - 記念式典のほか、著名作家による記念講演等を実施
 - ② 賑わい創出のための各種イベント
 - 様々なイベントの展開により、いつ来ても違った楽しみ方ができる
 - 各イベントを「本」と絡め、単に楽しむだけでなく、実のある知識にもつなげる
 - 階段広場や体験スペースなど、館内各所で重層的に関連イベントを展開し、様々な角度から知識を深掘り
- 【イベント例】**
- ・ 国立科学博物館と連携した開館特別展
 - ・ 人気ゲーム「文豪とアルケミスト」との連携による特別展
 - ・ 屋外広場・屋内広場を活用した農産物マルシェ
 - ・ だんだん広場を使用した音楽会の定期開催

- ③ 新図書館の館内紹介動画および開館記念誌の作成
 - 完成した建物内部の様子や、館内の利用方法などを解説した動画を製作し、新図書館への来館を促進
 - 館の機能のみならず、旧図書館の歴史や新図書館のコンセプトなどを網羅した記念誌を作成し、視察に来た県内外の方等に配布

施策・課題の状況						
施策	新県立図書館の賑わい創出				評価	B
課題	新たな賑わい拠点としての新県立図書館の魅力発信					
指標	県立図書館入館者数				単位	人
目標値	現状値					
令和5年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
1,000,000	246,407	257,589	122,689	89,090	781,318	

(令和3年度までは旧県立図書館の入館者数)
(令和4年度は新県立図書館開館(R4.7.16)からの入館者数)

事業費						
(単位:千円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算					32,000
	決算					28,974
一般財源	予算					32,000
	決算					28,974
事業費累計			0	0	0	28,974

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	敷居が高いイメージを持たれがちな「県立図書館」だが、新館の開館に合わせて行った数々の文化交流事業により、県民に対して楽しみながら様々な情報や知識に触れてもらうことができ、「図書館」に対するイメージを一新することができた。県外に対しても音楽会やモノづくり体験、有名人の招聘などのイベントを発信することで観光誘客にも繋がっているほか、いつも何かやっている図書館として、リーダーの獲得もできたと推察される。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	開館年度からしばらくは、新たな図書館を印象付け、入館者数の増加を図るために、著名作家を招聘した講演会や自然科学分野の体験イベント、音楽や能楽など石川が誇る文化にかかる各種イベントを重層的かつ大規模に展開していく必要がある。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 新県立図書館デジタルアーカイブ推進費	事業開始年度 R4	事業終了予定年度
	根拠法令 新石川県立図書館基本構想 ・計画等	

作 組 織 図書館
成 職・氏名 歴史公文書・郷土資料課 課長 小山 弘昭
者 電話番号 076 - 223 - 9588 内線

事業の背景・目的

新たな県立図書館では、基本構想も踏まえ、図書館創設時から引き継いできた加賀藩所蔵の資料をはじめ、絵図や古文書・古地図、写真等について、貴重度高いや傷み具合も踏まえながら、優先度の高いものから順次デジタル化し、閲覧のためのシステム整備を行ってきた。

今後、デジタル化の潮流が一層進む中、この取り組みをさらに加速・拡大していく必要がある。

また、新たに公文書館機能が備わったことで、開館時には戦前期以前の約3千冊の歴史公文書が移管され、閲覧に供することとなり、優先度を考慮しながら、これらのデジタル化にも着手する。

このほか、膨大な資料の中から世代を超えて継承すべき資料を評価・選別し、補修・修復・デジタル化などの作業を適切に行っていくため、必要な知識と技能を有する人材の養成にも取り組んでいく。

事業の概要

① 里山里海・生物文化多様性にかかる「石川コレクション」に関する貴重資料のデジタル化の加速・拡大
 ○これまでも、図書館が所蔵する貴重資料のデジタル化を進めてきたところだが、未だ道半ばであることから、図書館の大きな特徴である「里の恵み・文化の香り～石川コレクション～」に係る資料を中心にデジタル化を推進。

② 歴史公文書のデジタル化着手
 ○新図書館の開館時点で、戦前期以前の約3千冊の歴史公文書が県庁から移管されており、今後は逐次増加していく。これらのデジタル化は未着手であるため、利用者の引き合いの多いもの等、利用価値の高いものから順にデジタル化を行う。

③ アーカイブ技術を有する人材の育成
 ○本県では、国立公文書館が認証する「認証アーキビスト」が現時点でおらず、また、行政・民間を問わず「デジタルアーカイブ」に精通する者も少ないのが現状であり、県の文化施設職員をこうした研修に参加させる。

○また、県立図書館・歴博・美術館職員のほか、市町や民間事業者等に対する知識・技能の向上を図るため、外部有識者を招聘した研修を実施する。

施策・課題の状況						
施策	新県立図書館の賑わい創出				評価	B
課題	新たな賑わい拠点としての新県立図書館の魅力発信					
	指標	貴重資料・公文書のデジタル画像新規公開数(単年度)			単位	点
	目標値	現状値				
	令和5年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	320					135

事業費					
(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 予算					8,000
事業費 決算					7,201
一般 予算					8,000
財源 決算					7,201
事業費累計		0	0	0	7,201

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	令和4年度は、 ・貴重資料115点、歴史公文書20点をデジタル化 ・国立公文書館の認証アーキビストの認証を受けた職員を1名育成(図書館) ・「いしかわデジタルアーカイブ入門講座」を開催(R5.1.14-15・計9時間の座学)を実施し、図書館所蔵資料のデジタル化及び人材育成を進めることができた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	デジタル化が完了していない古文書・古地図等の資料があり、引き続き資料の保存、利用者の利便性向上の観点からデジタル化を進める必要がある。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 加賀百万石文化めぐり開催費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主事 山下 裕大			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3856			

事業の背景・目的
 コロナ禍においても、本県文化の魅力を国内外に広く発信するとともに、令和5年秋のいしかわ百万石文化祭2023に向けた気運醸成を図るため、兼六園周辺文化の森を中心に、本県ならではの多彩な文化イベントを実施する。

事業の概要

(1) 国立工芸館と連携した工芸文化の魅力発信

① いしかわ・全国の工芸をテーマにした講演会やワークショップの開催

② 国立工芸館、県立美術館、歴史博物館の特別展を巡るツアーの実施

③ 国、県、金沢市が連携した一体的な広報の展開
 ポータルサイト運営、リーフレット作成など

(2) 文化の森の賑わい創出と回遊性向上

① レトロ建築見学会の開催

「対象施設」

- ・国立工芸館(国登録)
- ・いしかわ赤レンガミュージアム(国重文)
- ・県立美術館広坂別館(国登録)
- ・石川四高記念文化交流館(国重文)
- ・しいのき迎賓館(国登録)

② 文化施設でのミュージアムコンサートの開催

③ その他
 ろうそく能鑑賞会、夏休み伝統工芸制作体験ワークショップ、文化の森スタンプラリーなど

これまでの見直し状況
 R4～: 兼六園周辺文化の森において、工芸文化や建築文化などの切り口から、年間を通じて多彩なイベントを開催することとし、「日本・いしかわの『文化百工』魅力発信事業費」から事業名称を変更。

施策・課題の状況							
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D	
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	913,000	976,144	823,786	400,646	437,371	588,409	
事業費							
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業費	予算	24,000	36,000	41,000	32,000	25,600	
	決算	23,858	35,823	15,692	12,680	22,600	
一般	予算	12,000	18,000	20,500	16,000	12,800	
	決算	11,929	19,418	7,846	6,340	11,300	
財源	決算	11,929	19,418	7,846	6,340	11,300	
事業費累計		166,434	202,257	217,949	230,629	253,229	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	工芸文化の魅力発信を目的とした講演会やワークショップを開催し、工芸文化に親しむ機会を提供した。また、文化施設でのミュージアムコンサートや、建築文化の魅力発信を目的としたレトロ建築見学会を開催し、兼六園周辺文化の森の回遊性向上に貢献した。				
			〈講演会・ワークショップ開催回数・参加人数〉 R4 開催回数:10回 参加人数:610人 (R3 開催回数:8回 参加人数:257人)				
今後の方向性	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	縮小	令和5年度は「いしかわ百万石文化祭2023」の開催に伴い、多くの観光客等が訪れることが見込まれているところであり、効果的な事業を厳選して実施する。周辺の文化施設がより一層連携を強化し、多彩な文化イベントを開催することで、エリア一体での誘客の促進と賑わいの創出を図る。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: ミュージアムツーリズム推進事業費	事業開始年度: R4	事業終了予定年度:	作 組 織: 文化振興課
	根拠法令・計画等: いしかわ文化振興条例、文化観光推進法		成 職・氏名: 専門員 藤田 幸夫 者 電話番号: 076 - 225 - 1371 内線 3851

事業の背景・目的

兼六園周辺文化の森エリア一帯の回遊性を向上させるため、文化の森が有する豊富な文化資源を活用した体験型コンテンツを旅行会社とともに造成し、旅行商品化を目指す。

事業の概要

(1)「レトロ建築めぐりツアー」

複数のレトロ建築をボランティアガイドの解説付きで巡り、県産食材を取り入れたランチやスイーツを堪能するツアー
 「対象施設」
 国立工芸館、いしかわ赤レンガミュージアム、県立美術館広坂別館、石川四高記念文化交流館、しいのき迎賓館

(2)「ミュージアムツアー」

「美術工芸」をはじめとした本県が誇る多彩な文化を、見たり、創ったり、食べたり、様々な切り口から楽しめるツアー
 「対象施設」
 国立工芸館、いしかわ赤レンガミュージアム、県立美術館、石川県文化財修復工房、いしかわ生活工芸ミュージアム、県立能楽堂、石川四高記念文化交流館など

(3) SNS映えスポットの紹介

SNS映えスポットとイメージ写真をマップに落とし込み、WEBとリーフレットで紹介

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造			評価	D	
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	913,000	976,144	823,786	400,646	437,371	588,409
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算					3,000
	決算					3,000
一般	予算					1,000
財源	決算					1,000
	事業費累計	0	0	0	0	3,000
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	兼六園周辺文化の森の文化資源を活用した全10回のモニターツアーを実施し、参加者アンケートで好評を得た3件の体験型コンテンツについて磨き上げ、旅行商品化を実現した。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	兼六園周辺文化の森エリア一帯の魅力を高め、更なる誘客を促進するため、次年度以降は、今回造成した旅行商品とは異なる観点・テーマを設定し、コンテンツ制作、旅行商品化を目指す。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 明治・大正レトロ文化発信拠点整備費	事業開始年度 R4	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例、文化観光推進法	成 職・氏名 専門員 藤田 幸夫 者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3851

事業の背景・目的

石川四高記念文化交流館(旧第四高等中学校)の旧門衛所と本館を整備・活用し、「レトロ建築」の情報発信に加え、衣装体験やオリジナルグッズの開発・販売などの様々な切り口から、明治・大正のレトロ文化を発信し、誘客拡大を図る。

- 事業の概要**
- (1)レトロ衣装体験室の整備[本館]
- ①明治・大正期の衣装(着物や袴など)を貸し出し、館内外のフォトスポットで衣装体験を提供(スポットを紹介するパンフレットも配布)
 - ②ミュージアムツーリズムなどのイベントにも活用
- (2)レトロミュージアムショップの整備[門衛所]
- ①当時の学生の生活や文化に関連したオリジナルグッズなどを開発・販売
 - ②販売商品はミュージアムツーリズムなどのお土産としても活用
 - ③文化の森内のレトロ建築の情報発信をするとともに、ツアーや衣装体験などのイベントも紹介

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造			評価	D	
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	913,000	976,144	823,786	400,646	437,371	588,409

事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算					10,000
	決算					6,004
一般	予算					2,000
財源	決算					1,004
事業費累計		0	0	0	0	6,004

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B レトロ衣装体験室及びレトロミュージアムショップの整備のため、工事の実施設計、オリジナルグッズの開発等を実施し、令和5年度の本格整備に向けて着実に事業を進捗した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 レトロ衣装体験室及びレトロミュージアムショップの整備のため、令和5年度においては、整備工事の実施、管理運営事業者の選定等を実施する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	最先端の映像技術を活用した文化資源の魅力発信事業費	事業開始年度	R4	事業終了予定年度	R7
		根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例、文化観光推進法		

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主事 小菱 愛未			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3838			

事業の背景・目的

美術館や博物館等の文化施設を観光拠点として活用するため、R2年5月に文化観光推進法が制定されたことを受けて、兼六園周辺文化の森の文化施設が一体となり文化観光を推進する、「兼六園周辺文化の森地域計画」(計画期間:R3～7)の5ヶ年計画を、国、県、市の3者共同で作成し、R3年5月に文化庁から計画の認定を受けた。

地域計画に基づき、R5秋のいしかわ百万石文化祭2023をはじめ、R6春の北陸新幹線県内全線開業、R7大阪・関西万博に向けて、本県の美術・工芸文化の魅力を発信し、地域の文化振興、観光振興につなげるため、文化施設の機能強化による魅力増進を図る。

事業の概要

県立美術館に最先端の映像技術を活用した「VRシアター」を整備し、県立美術館や前田育徳会が所蔵する国宝・重要文化財等を、高精細画像(8K)やCGを駆使して紹介する。

「VRシアター概要」

- ・上映場所: 県立美術館2階ロビー(コレクション展示エリア内休憩コーナー)
- ・150インチスクリーン、8Kプロジェクターを設置
- ・定員: 30名程度
- ・上映時間: 15分程度

「上映コンテンツ概要」(R4制作映像)

①「色絵雉香炉ー悠久の時を超えてー」
 県立美術館が所蔵する国宝「色絵雉香炉」、重要文化財「色絵雌雉香炉」の制作工程等を再現

②「美を紡ぐ、そして文化を育むー加賀前田家から現代へ、そして未来へー」
 加賀藩の文化政策など本県の美術・工芸文化の歴史を紹介

「特徴」

- ・通常の展示では見ることができない作品の裏側や、内部の細工などを様々な角度から見ることができる
- ・作者や作品にまつわるエピソードや制作工程をCGで再現

「スケジュール」

R4 VRシアター、上映コンテンツを整備
 R5.7月 VRシアターオープン
 ※R5以降も、毎年1～2作品程度の上映コンテンツを追加で制作予定

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	評価	D			
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進					
	指標	県立美術館入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	472,500	529,858	403,763	253,363	260,199	334,571
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算					65,000
	決算					64,013
一般財源	予算					21,667
	決算					22,318
事業費累計			0	0	0	64,013
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和4年度は、令和5年度のオープンに向けて、県立美術館内にVRシアターを整備するとともに、上映コンテンツとして、国宝「色絵雉香炉」の制作工程などを再現する映像や、加賀藩の文化政策など本県の美術・工芸文化の歴史を紹介する映像を制作し、県立美術館の文化観光拠点施設としての魅力向上および本県の文化観光の推進に向けた整備を進めることができた。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県立美術館の文化観光施設としての魅力を向上させ、本県の文化観光の推進につなげるため、令和5年7月にVRシアターをオープンした後も、引き続き、上映コンテンツを毎年1～2作品制作する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 県立美術館
	根拠法令 ・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 総務課主幹 一木 勉
			者 電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510

1 事業の背景・目的
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。
 また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

2 事業の概要

(1) 師弟の共演 ～いしかわゆかりの作家と巨匠たち～

① 会 期 : 令和4年4月24日～5月22日 (会期 29日間)

② 内 容 : 当館において、これまであまり取り上げられることのなかった師弟の関係性に注目し、本県ゆかりの代表的作家と、彼らが師事した全国レベルの著名な作家を取り上げ、それぞれの影響から、新たな創造への軌跡を70点の絵画・彫刻でたどる。

(2) 生誕150年記念 板谷波山の陶芸

① 会 期 : 令和4年6月25日～7月24日 (会期 30日間)

② 内 容 : 生誕150年を迎える近代陶芸の巨匠・板谷波山の本格的巡回展。
 波山の故郷茨城県筑西市を皮切りに、石川、京都、東京、そして茨城県笠間市の5地域をめぐる。
 平成14年重要文化財指定の《葆光彩磁珍果文花瓶》をはじめ、150件の展覧を通して板谷波山の芸術を紹介する。

(3) 加賀宝生のすべて～能面と能装束～

① 会 期 : 令和4年9月17日～10月23日 (会期 37日間)

② 内 容 : 藩政期より金沢の能楽は、宝生流が盛んなことから「加賀宝生」と呼ばれる。かつて前田家が所蔵し、散逸していた能装束が近年、相次いで確認され、注目が集まっている。
 県立能楽堂50周年にもあたり、わかりやすい展覧に主眼を置き、能への関心と理解を深める機会とする。

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進					
	指標	県立美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	472,500	529,858	403,763	253,363	260,199	334,571
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度
事業費	予算	20,763	20,763	49,589	40,841	30,425
	決算	20,251	14,475	17,861	34,197	25,809
一般	予算	8,847	8,847	8,847	7,962	12,558
財源	決算	7,868	8,349	7,962	21,734	12,094
事業費累計		592,126	606,601	624,462	658,659	689,084
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和4年度は、社会の新型コロナウイルスとの共生の流れにより、期間を短縮することもなく、計画通りに展覧会を開催し、入館者数は令和3年度からさらに回復し、令和元年度の8割以上になった。 来館者アンケートでは、93%の方から満足したという高い評価を得ることができた。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、コロナ禍以前の入館者数への回復、来館者満足度のより一層の向上を目指す。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館特別展示費	事業開始年度 S62	事業終了予定年度	作 組 織 歴史博物館
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名 総務課 企画管理専門員 藤永 太郎 者 電話番号 076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い、県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となることを目的としている。

事業の概要

(1) 春季特別展
 テーマ:「大加州刀展」
 時 期:令和4年4月28日～6月26日 (60日間)
 主 旨:加州刀とは加賀国で活躍した刀工たちが鍛えた刀を指す。加賀の刀工は、南北朝時代に活躍した「真景」や越前国から移住してきた「藤嶋友重」をその先駆けとし、その後多くの名工が活躍した。なかでも「清光」の歴代は見落とせない。「清光」は加州泉村(現金沢市)に住み、室町時代中頃から明治時代まで連綿と続いた最長の流派です。近年、ゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」に「加州清光」がキャラクターとして登場して大いに人気を博し、一挙に世に知られた。

(2) 夏季特別展
 テーマ:「工業教育の精華－納富介次郎とデザインの思想－」
 時 期:令和4年7月23日～8月28日 (37日間)
 主 旨:工芸作家の成長には、師である教育者の存在が非常に重要な意味をもつ。教育者がもつ技術や理論のみならず、人間性や生き様までも参考にして作家は成長する。本展は、金沢工業学校開校以降、石川県にゆかりのある工業教育者たちにより制作された作品や図案、図書資料等を一堂に展示することで、工業王国石川が誇る先進的な工業教育の全容と、各時代の教育者たちがもつ教育理念や工業文化に対する思いなどを理解して頂くことを目的として開催する。日本刀は、日本民族特有の精神文化が生み出した世界に比類のない芸術の精華であり、我が国の貴重な文化遺産として今日高く評価されている。

(3) 秋季特別展
 テーマ:「アトウィー海と奏でるアイヌ文化－」
 時 期:令和4年9月23日～11月13日 (52日間)
 主 旨:アイヌと石川県の交流を示す工芸品が近年相次ぎ確認されている。輪島市や白山市では、アイヌが神にささげていた工芸品が神社で発見された。また、アイヌの側では、神事に使う神聖な器に、輪島塗が利用されてきた可能性が出てきた。北前船を介し、アイヌと石川県は、工業文化の交流をもってきたのである。本展では、アイヌ文化振興財団ほか、北海道内の博物館が所蔵する海にかかわる工芸品を中心に、かつ石川県や北陸地方に伝来するアイヌ関係資料を一堂に紹介し、先住民をめぐる壮大な交流の歴史を紹介するものである。

施策・課題の状況							
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D	
課題	兼六園周辺文化の森における文化の魅力発信と文化観光の推進						
	指標	歴史博物館入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	165,000	174,753	151,807	97,238	122,753	154,349	
事業費							
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業費	予算	31,352	37,136	39,263	48,156	35,003	
	決算	28,424	36,200	18,404	43,186	29,323	
一般	予算	12,506	12,115	12,115	6,993	11,407	
財源	決算	21,411	21,387	12,915	19,774	13,262	
事業費累計		322,938	359,138	377,542	420,728	450,051	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和3年度から今年度の開催へ延期された「大加州刀展」が約17,000人の入場者数を記録するなど、多くの来場者が訪れるとともに、来館者アンケートも99%の方が満足したと回答するなど、高い評価を得ることができた。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県の歴史や文化の魅力を様々な視点から発信するとともに、多くの来館者から満足が得られるよう、展示方法や内容に工夫を凝らし、効果的な事業実施に努める。 ・県民の興味を引くようなテーマ設定やニーズの掘り起こし ・SNS等の活用による広報 ・来館者アンケートによる利用者ニーズの把握と特別展への反映					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催費	事業開始年度	H29	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	主事	松本 季実		
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 4366			

事業の背景・目的
一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、地域に密着した、本県ならではの企画を盛り込んだ音楽祭を開催し、石川の音楽文化を発信するとともに、音楽を通じた地域の賑わい創出にも寄与することを目的とする。

事業の概要
1 開催時期: 令和4年4月28日(木)～5月5日(木・祝) 8日間

2 会場: 県立音楽堂、北國新聞赤羽ホール、加賀・能登地区の文化施設ほか

3 内容: (1)世界的な作曲家などをテーマにした本格的なクラシックコンサート
オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめ、国内の一流オーケストラや世界的な指揮者などによる「ロマン派音楽」にまつわる名曲演奏など

(2)伝統芸能「邦楽」の新たな魅力の発見
石川が誇る邦楽の単独公演、邦楽とクラシックのコラボレーションなど

(3)県民が楽しみながら気軽に親しめるクラシックコンサート
作曲家による即興演奏&トークバトルや、ダンスや映像などとのコラボレーション公演

(4)石川が育んだ若手音楽家たちの共演
いしかわミュージックアカデミー出身者や北陸新人登竜門コンサート出身者などの国内外で活躍する若手音楽家によるコンサートなど

(5)地元演奏家や子どもたちとともに、みんなで楽しむ参加型プログラム
オーディション合格者によるピアノ公演、公募型合唱コンサート、市民オーケストラ等の合同演奏など

4 来場者目標: 80,000人

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの開催支援					
指標	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数			単位	人	
目標値	現状値					
平成4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
80,000	112,960	113,234	15,069	23,964	71,209	
事業費						
(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業費	予算	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000
	決算	69,850	96,705	68,000	73,000	88,000
一般	予算	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
財源	決算	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
事業費累計	385,776	482,481	550,481	623,481	711,481	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外オーケストラの招聘は叶わなかったものの、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、本県の音楽文化の振興に寄与した。 <公演数> R4:166公演(R3:112公演)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業費	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 安村 俊亮		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室、県立美術館ホール
 - ②実施期間等
令和4年10月～令和5年3月の実施期間内に年33回開催(3茶屋街×11回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客

※県立音楽堂邦楽ホール和室での開催に合わせて、邦楽ホールバックステージツアーを3回実施(「金沢芸妓の舞」終了後、30分程度)

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの開催支援					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	112,000	111,603	121,012	31,681	58,948	70,527
※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	4,000	4,000	4,600	5,000	5,000
	決算	4,000	3,750	4,200	8,500	7,300
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		21,100	24,850	29,050	37,550	44,850
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	「金沢芸妓の舞」は、県民や観光客に、普段体験できない茶屋文化に触れる貴重な機会を提供しており、また、芸の披露の場を確保することにより、金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 <公演回数・入場者数> R4: 33回/1,825人(R3: 33回/1,499人)			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民や国内外からの観光客に、茶屋文化に気軽に親しんでもらうとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図るため、引き続き、支援に取り組む。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主事 新保 杏月
					者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的

定期的な能楽を上演し、鑑賞及び体験の機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

- 事業の概要**
- 内 容
- 1 能楽鑑賞
「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 - ①「夏の観能の夕べ」
全9回 令和4年7月～8月(毎週土曜日)
(特別公演1回、一般公演8回)
 - ②「冬の観能の夕べ」
全5回 令和5年1月～3月の期間中(土曜日)
 - 2 能楽体験
「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を実施
定員:20名/回(要事前予約、能楽鑑賞者の中で申込順)

会 場 石川県立能楽堂

主 催 いしかわの伝統文化活性化実行委員会

対 象 一般

- 入場料
- ①「夏の観能の夕べ」
特別公演 3,000円/回
一般公演 1,000円/回
 - ②「冬の観能の夕べ」
前売り 1,000円/回
当日 1,200円/回
 - ③ 能楽体験
無料

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの開催支援					
指標	能楽堂入館者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
54,000	49,363	48,445	20,908	32,384	36,887	

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
(単位:千円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	6,000	6,000	6,000	6,000	12,110
	決算	5,325	3,316	5,596	6,000	11,740
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
財源		0	0	0	0	0
事業費累計		93,200	96,516	102,112	108,112	119,852

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C 本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供したほか、公演回数を確保することにより、能楽師の技術向上にも貢献した。 <公演回数・入場者数> R4:13回/2,574人(R3:14回/2,001人) ※コロナにより、能楽体験は中止 ※7/16公演はコロナ陽性者が出たため中止
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 今後も「観能の夕べ」を継続することにより、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ文化の日・いしかわ文化推進期間 普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主事 滝沢 香織
						者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845

事業の背景・目的
 県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、より多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

事業内容

実施主体：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
 (構成員＝県、県教育委員会、国立工芸館、金沢市、石川県観光連盟、金沢市観光協会)

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業 (10月16日(日))

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催

- ・ 会 場： 松任文化会館ピーノ(白山市)
- ・ 内 容： ①オープニング公演
②記念講演
③文化体験

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発

- ・ 県内文化施設の当日県民入場無料化
- ・ 啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業 (10月16日(日)～11月3日(木・祝))

ア スタンプラリーの実施

- ・ 県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
- ・ 複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 協賛事業イベントパンフレットの作成

- ・ 期間中に実施される県内の文化イベント情報を掲載したパンフレットの作成、配布
- ・ 文化施設、観光施設、商業施設等に設置

施策・課題の状況							
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造					評価	D
課題	多彩な文化イベントの開催支援						
指標	いしかわ文化の日県民入場無料施設の入館者数				単位	人	
目標値	現状値						
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	45,000	43,450	60,700	43,314	28,477	44,855	
事業費							
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業費	予算	6,500	5,200	5,200	4,100	4,100	
	決算	6,500	5,200	5,200	4,100	4,100	
一般	予算	6,500	5,200	5,200	4,100	4,100	
	決算	6,500	5,200	5,200	4,100	4,100	
財源	決算	6,500	5,200	5,200	4,100	4,100	
事業費累計		24,500	29,700	34,900	39,000	43,100	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「いしかわ文化の日」には120の文化施設を無料化することで、4万人以上の県民の施設利用があったほか、記念イベントの参加者アンケートでも、「世界の食や日本の食文化の話を発酵食を交えて聞けてとても楽しかった」といった、好意的な意見が多く、県民の文化意識の向上を図ることができた。 <いしかわ文化の日の無料化対象施設の入館者数> R4:44,855人(R3:28,477人)				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	休 止	R5年度の「いしかわ文化の日」は「いしかわ百万石文化祭2023」の開会式を実施するため、記念イベントは実施せず、文化施設の無料化のみ実施し、R6年度から記念イベントを再開する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	文化振興課	
成	職・氏名	主任主事 細川 有香	
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844	

事業の背景・目的
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる発展と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事業名	文化活動支援事業	
	① 文化創造普及事業	② 地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業(新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業(新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に全体事業を認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助成率	最大で全体事業費の1/2 <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は2/3 ※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 1/2 (又は2/3) ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
		団体自己負担の1/2以上を地元市町が補助
助成限度額	最大 300万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は400万円</small>	最大 150万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は200万円</small>

事業名	若手芸術家活動支援事業	
	対象事業	県全域を対象として活動を行う文化団体に所属する概ね40歳未満の若手芸術家(個人又はグループ)が行う個展やコンサートなど <small>※所属する文化団体から推薦のある者に限る</small>
助成対象期間	1年間	
助成率	最大で全体事業費の2/3 <small>※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 2/3 ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
助成限度額	最大20万円	

これまでの見直し状況
 平成30年度募集より、「子ども対象事業」及び「指導者育成事業」の支援を拡充するとともに、若手芸術家への支援制度を新設

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり					評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	13,200	13,902	11,797	1,633	5,401	9,067	

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
	<small>(単位:千円)</small>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
	決算	71,024	70,147	68,492	63,224	62,754
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		247,697	317,844	386,336	449,560	512,314

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">A</p> <p>文化活動・若手芸術家活動の広範な分野から創意溢れる様々な取組の応募があり、R4年度は39件(R3年度:39件)を事業認定・助成した。 助成事業には、大正琴や山代大田楽など、昨年までの認定にはない新たな分野の取組が含まれ、多様な分野での活用が広がっており、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる発展と裾野の拡大に寄与している。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">継続</p> <p>引き続き、文化団体や個人の自主的・主体的な活動の支援を行い、本県文化の更なる発展と裾野拡大を図る。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子どものための音楽文化推進事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主事 松本 季実			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 4366			

事業の背景・目的
「いしかわ文化振興条例」の基本理念に基づき、本県の文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指すため、洋楽(クラシック音楽)・邦楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図る。

- 事業の概要**
- 1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布
 - (1) 内容

普段、邦楽等に触れる機会の少ない子ども達を対象とした洋楽・邦楽の基礎知識等をまとめたリーフレットを作成し、配布する。

 - ①洋楽
 - ・クラシック音楽とは？(歴史、楽器、編成等の基礎知識)
 - ・代表的な作曲家とその代表曲
 - ・コンサートに行くには？(服装、マナー等)
 - ・音楽堂、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)紹介 など
 - ②邦楽
 - ・邦楽の歴史、楽器について
 - ・音楽堂邦楽ホール紹介 など
 - (3) 作成部数

各15,500部
 - (4) 配布先

県内小学校(6年生)、各市町、各種イベント、音楽教室等

- 2 はじめてのコンサート開催((公財)石川県音楽文化振興事業団への補助金)
 - (1) 目的

リーフレット等で興味を持った人に、実際にコンサートに足を運んでもらう。
 - (2) 内容

既存の音楽堂主催のコンサートのうち1公演を、初心者向けのコンサートとする。
 - (3) 特徴
 - ①リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器紹介、鑑賞マナーなど)
 - ②楽器体験コーナーの設置
 - (4) 開催回数

2回
 - (5) 出演

MC(司会)、OEK、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか

施策・課題の状況					
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	評価	D		
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大				
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	単位	人		
目標値	現状値				
平成4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
13,200	13,902	11,797	1,633	5,401	9,067
指標	音楽堂入場者数	単位	人		
目標値	現状値				
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
258,000	255,959	260,592	50,282	114,649	157,274

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	決算	2,497	1,709	2,299	2,299	2,300
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		9,059	10,768	13,067	15,366	17,666

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 普段邦楽やクラシック音楽に触れる機会の少ない子ども達を中心に、リーフレットの作成・配布による、邦楽やクラシック音楽の基礎知識等に触れる機会を創出し、音楽文化の普及啓発を図った。 <「はじめてのコンサート」入場者数> R4:658人(R3:391人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	縮小 教育現場でタブレットが活用されていることから、リーフレットの配布は中止としたが、引き続き、コンサート内容の充実により子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、音楽を嗜む県民の裾野拡大に取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
		根拠法令	いしかわ文化振興条例		
		・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 安村 俊亮			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

事業の背景・目的

県内の小中学生を対象に優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
県内で6公演を実施 (公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託
(輪島市、羽咋市、かほく市、白山市、野々市市、内灘町)
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
県内で10公演を実施 (公社)日本児童青少年演劇協会に委託
(輪島市、珠洲市、かほく市、白山市、野々市市、川北町、内灘町、志賀町、穴水町、能登町)
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (藤間勘菊社中、田澤結宇勢社中ほか)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙社中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内2公演を実施(小松市、珠洲市)

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	13,200	13,902	11,797	1,633	5,401	9,067	

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	4,231	4,012	5,232	4,582	4,582
	決算	4,231	2,812	0	3,682	4,582
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		310,200	313,012	313,012	316,694	321,276

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由 B 県内の子どもたちにオーケストラや演劇など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐくむことに寄与している。 鑑賞教室等を体験した学校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。 <鑑賞者数> R4:6,443人(R3:3,358人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 本物の芸術に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 また、開催希望数が増加するよう、市町担当者に当該事業の説明会やPRを行うなど、引き続き市町に対し積極的な働きかけを行う。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民移動能実施事業費	事業開始年度 H2	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名 主事 新保 杏月 者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

「内 容」
狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒を対象としたワークショップ

「公演日、会場」
① 5月10日(火) 穴水町のとふれあい文化センター(穴水中学校)
② 11月28日(火) 小松市立安宅小学校

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	13,200	13,902	11,797	1,633	5,401	9,067

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
		(単位:千円)				
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	決算	3,000	3,000	1,500	3,000	3,000
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
財源		0	0	0	0	0
事業費累計		87,000	90,000	91,500	94,500	97,500

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会の少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供しており、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。 <公演回数・鑑賞者数> R4:2回/258人(R3:2回/221人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっている。 実施した市町からは好意的な意見が多いことから、各市町の要望に応じて、内容の充実を図りながら、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度		作 組 織 文化振興課 成 職・氏名 主事 新保 杏月 者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3854
	根拠法令	いしかわ文化振興条例			
	・計画等	石川県バリアフリー社会の推進に関する条例(H9.3)			

事業の背景・目的
 障害のある方でも楽しめる文化展の開催を通じて、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供することで、障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現する。

事業の概要

- 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
- 2 会 場 石川県立歴史博物館
- 3 期 間 令和4年12月3日(土)～9日(金) 7日間
- 4 対 象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
- 5 内 容 ふれてみる彫刻展、音楽とおはなしの会・ミニコンサート、クイズコーナー、彫刻ワークショップ

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
13,200	13,902	11,797	1,633	5,401	9,067	

※いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 予算	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
事業費 決算	998	978	84	82	80
一般 予算	0	0	0	0	0
財源 決算	0	0	0	0	0
事業費累計	30,020	30,998	31,082	31,164	31,244

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由 文化展は、著名な彫刻家の作品をじかに触れる彫刻展であり、障害のある方も含め、幅広い層の県民が文化芸術に親しむ機会となっており、文化事業のソフト面でのバリアフリー化の推進に資するものである。 B <参加者数> R4:50人(R3:42人) <うち視覚障害者数> R4:16人(R3:13人) ※コロナにより、R4年度も県立盲学校への出前形式で彫刻展を開催
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 文化展は、障害のある方にとって、芸術文化に触れることができる貴重な場となっていることから、障害者団体の要望等を踏まえ、内容等の充実を図りながら、引き続き開催していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわジュニアアートステージ開催費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	主事 滝沢 香織			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845			

事業の背景・目的
 本県文化の次代の担い手を育成するため、トップレベルの文化活動を実践している児童・生徒による「和」と「洋」の創意あふれるステージ発表や作品展示などを通して、多くの児童・生徒が刺激を受け合う場を創出し、今後の文化活動の更なる意欲の向上を図る。

事業内容

(1) 会場 県立音楽堂、しいのき迎賓館

(2) 開催時期 令和4年12月17日(土)～25日(日)

(3) 出演・出展内容

① ステージ公演 (県立音楽堂邦楽ホール、令和4年12月25日)

- ・分野 「和」 箏曲、民謡、三味線、和太鼓など
「洋」 洋舞(ダンス、バレエ)、ピアノ、合唱、吹奏楽、チェロなど
- ・公演 10～15分/団体(7～8団体程度)
- ・講評等 著名な舞台関係者による講評
- ・交流 出演者同士の「和」と「洋」のコラボステージ(1～2組)

② 作品展示会 (しいのき迎賓館しいのきプラザ、令和4年12月17日～24日)

- ・作品展示 全国高等学校総合文化祭出品作品等
- ・講評 各分野の専門家らによる講評
- ・交流 高校生による生け花や書道のステージパフォーマンスや、生け花、書道、似顔絵の体験

(4) 出演基準
 全国的なコンクールや大会で入賞した団体・個人 (対象：小学生～高校生)
 (各部門の協会・連盟等からの推薦を要する)

(5) 親子文化体験イベント

- ・開催時期：令和4年12月24日(土)
- ・会場：音楽堂の練習室・控室等
- ・体験分野：箏曲、ピアノ、和太鼓、ダンスなど

※「アートステージ」本番の鑑賞にもつなげ、文化活動をはじめのきっかけづくりとする。

(6) 能登地区でのミニイベント(加賀・能登隔年開催)

- ・開催時期：令和4年9月11日(日)
- ・会場：輪島市文化会館
- ・内容：ミニコンサート、作品展示(一部)、親子文化体験イベントなど

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
913,000	976,144	823,786	400,646	437,371	588,409	
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
112,000	111,603	121,012	31,681	58,948	70,527	

事業費					
(単位：千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 予算	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
事業費 決算	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
一般 予算	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
財源 決算	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
事業費累計	7,000	14,500	22,500	30,400	38,300

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「ステージ公演」では、「和と洋のコラボステージ」について、出演者からは「他の楽器と一緒に演奏出来て面白かった」との声が聞かれたほか、来場者からも「バランスがとれていてそれぞれが引きだっていた」などの声が聞かれた。 「作品展示」では、県内全域の高校生の優秀な美術作品を展示することができた。 「幼児向け文化体験」では、来場者から「親も一緒に体験できてとても楽しめた」などの声が聞かれたほか、出演者からも「良い経験になった」との声が聞かれ、来場者アンケートではいずれも満足度が9割を超えた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	休 止	出演した児童・生徒が、他の出演者に刺激を受けることで、その後も全国レベルのコンクールに入賞するなど、一定の成果が得られたが、観客の中心が出演者の親族であり、より多くの子供たちに見てもらえる工夫が必要であるため、本事業は休止し、一定の見直しを行ったうえで再開や統合などを検討する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		
		根拠法令	いしかわ文化振興条例			
		計画等				

作成者	組織	文化振興課			
	氏名	主事 本間 千恵			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3856			

事業の背景・目的
 子どもたちが本県の文化に深く親しむことは、本県文化の振興を図っていく上での礎ともなる重要な施策であるため、兼六園周辺文化の森を中心に、県内の様々な文化施設において、小・中学生を対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、本県の質の高い「本物の文化」の奥深い魅力や真髄を五感を通じて体感してもらう。

事業の概要

(1) 体験内容
 美術館、歴史博物館の文化施設のほか、図書館や生涯学習センターにおいて、伝統芸能・工芸や音楽、美術など計150以上の体験メニューを提供

①伝統芸能
 ・能楽(能、仕舞、狂言)
 ・その他伝統芸能(三味線、箏、太鼓、日本舞踊)

②伝統工芸
 ・焼き物・器づくり(ろくろ回し、絵付け)
 ・塗り物(蒔絵、金箔)
 ・木工芸(組子細工、竹細工)

③音楽
 ・洋楽器演奏(弦楽器、打楽器)

④美術
 ・芸術(絵画、彫刻、壁画)

⑤その他
 ・歴史・文学(朗読会)
 ・生活文化(茶道)
 ・文化財・博物館学(子どもふるさと博士講座)
 ・異文化(アイヌ伝統舞踊)

(2)いしかわ子ども文化体験チャレンジスクールの実施
 上記の体験内容を対象メニューとしたスタンプラリーを実施し、参加実績に応じて称号と記念品を付与

これまでの見直し状況
 平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	913,000	976,144	823,786	400,646	437,371	588,409	
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	112,000	111,603	121,012	31,681	58,948	70,527	

事業費						
(単位:千円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	12,000	11,500	11,500	10,000	10,000
	決算	11,655	10,782	6,780	8,144	9,670
一般	予算	6,000	5,750	5,750	5,000	5,000
財源	決算	5,828	5,391	3,390	4,072	4,835
事業費累計		36,478	47,260	54,040	62,184	71,854

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B
	左記の評価の理由 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、参加メニューの質・量ともに充実させ、参加人数は約1万4千人と昨年と比べて倍増した。伝統芸能や伝統工芸をはじめ、幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけとなり、文化の裾野拡大に寄与した。 〈メニュー数〉R4:166メニュー(R3:132メニュー) 〈延べ参加人数〉R4:14,747人(R3:7,982人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	休
	子どもが各文化施設へ足を運ぶ機会を多数創出できたものの、例年の継続事業で、参加者が固定化している課題が見受けられたため休止することとし、一定の見直しを行ったうえで再開や統合などを検討する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 小菱 愛未		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3838			

事業の背景・目的

これまで積み重ねてきた修復の実績や石川の高い修復技術を、県内・全国に向けて積極的に発信し、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。

事業の概要

文化財保存修復工房、および隣接する県立美術館広坂別館(旧陸軍第九師団長官舎、H28国登録有形文化財)において、各種事業を実施。

- ① 体験イベント等の充実
 - ・修復実績のパネル展示
 - ・大学生向けワークショップ
 - ・「寒糊吹き」の実演
- ② 修復工房セミナーの開催

外部講師(第一線で活躍する専門家)を招いてセミナーを実施。文化財の適切な管理・修復方法について、県内の文化財関係者に向けた普及啓発を行う。
- ③ 修復工房活動報告冊子の作成・配布

リニューアルオープンからの工房における具体の修復実績等をまとめた冊子を、引き続き博物館・美術館や寺社等、文化財関係者への配布する。また、昨年度の具体の修復実績等をまとめた冊子を新たに作成し、同様に配布する。

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	県立美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	472,500	529,858	403,763	253,363	260,199	334,571
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成3年度	令和4年度
事業費	予算	1,400	1,400	1,400	1,424	1,140
	決算	1,372	1,115	1,054	1,276	992
一般	予算	700	700	700	712	570
	決算	706	557	527	638	496
財源	決算	706	557	527	638	496
事業費累計		7,278	8,393	9,447	10,723	11,715
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	修復実績の展示や「寒糊吹き」の実演等のイベントを通じて本県の高い文化財修復技術を発信したところ、修復工房の入館者数は、前年度より約9千人多い3万人余りとなった。 <修復工房入館者数> R4:30,351人(R3:21,391人) <修復実績> R4:50件(R3:37件)			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	縮小	来年度以降、修復実績については修復工房のHP上で公開するため、冊子の印刷・配布は終了するが、体験イベントやセミナーの開催を通して、引き続き情報発信に努め、更なる魅力発信や利用促進を図る。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわミュージックアカデミー開催費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主任主事 松本 隼樹
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 4365

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

事業の概要

- 1 事業名 2022いしかわミュージックアカデミー (IMA:ISHIKAWA MUSIC ACADEMY)
- 2 期 間 令和4年8月17日(水)～26日(金) 10日間
- 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
- 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事) 馳 浩
- 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
定員:ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
定員:ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ IMAオンラインレッスン(期間中のレッスンを撮影し、公開)
 - (2) コンサート部門
 - ① IMAフェスティバルコンサート
:IMA講師によるコンサート(県立音楽堂)
 - ② ミニコンサート
:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の特別支援学校、福祉施設等)
 - (3) フェロシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。
 - (4) 県内若手音楽家育成事業
 - ① 基礎クラス優秀者に対する特別レッスンの開催(IMA開催後に実施)
 - ② IMA講師による無料体験レッスンの開催

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	評価	D			
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	300	1,381	1,881	-	-	1,734
(令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止。)						
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	16,140	20,140	20,140	20,140	19,540
	決算	16,140	20,140	6,670	10,000	19,540
財源	予算	16,140	20,140	20,140	20,140	19,540
	決算	16,140	20,140	6,670	10,000	19,540
事業費累計		495,355	515,495	522,165	532,165	551,705
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	A	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。また、レッスンの一般公開のほか、受講生によるミニコンサートの開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 加えて、海外講師のほか海外からの受講生も参加し、交流を深めることから、文化安全保障にも寄与する取組となっている。 鑑賞者数 R1:3,426人、R4:1,645人 ※R2、R3は中止			
			今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)			
	継続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手演奏家の育成に取り組む。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度 H14	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名 主事 松本 季実 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 4366

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての石川県立音楽堂において(公財)石川県音楽文化振興事業団が行う魅力ある多彩な自主事業に対して助成を行うことにより、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大
 - 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(7事業)
 - ・パイプオルガンによるシリーズ公演
 - ・洋楽と邦楽のコラボレーション・コンサート
 - ・ランチタイム、アフターセブンコンサート(室内楽の公演) 他
 - (2) 邦楽ホール(7事業)
 - ・野村萬斎邦楽監督特別公演
 - ・名手・名匠 邦楽と舞踊の会
 - ・芸の鼓動(地元新進気鋭の演奏家、舞踊家の公演) 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・音楽堂フェスタ(親子で楽しめる伝統芸能等の体験イベント)
 - ・おしゃべりクラシック
 - ・カルチャーナビ(洋楽監督によるクラシック音楽講座や芸能講座)

計 19事業
 - 3 総事業費
 177,100千円
 うち県補助金 15,000千円

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	音楽堂入場者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
258,000	255,959	260,592	50,282	114,649	157,274	

事業費					
(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
一般	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
財源	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
事業費累計	184,880	199,880	214,880	229,880	244,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和4年度は、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、本県の音楽文化の振興に寄与した。 <事業数・参加者数> R4:17事業/13,971人(R3:18事業/11,983人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	日本を代表する芸術家が監督を務める音楽堂の強みを活かし、全国トップレベルの施設として、本県の音楽文化を県内外に発信するとともに、障がい者向けのワークショップやコロナ禍で大きく制限を受けた合唱活動の支援などに新たに取り組むこととし、これまで以上にすそ野拡大や担い手育成に力を入れる。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主事 松本 季実			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 4366			

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:細川 俊夫)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業を開催する。
・世界的アーティスト(アンジェラ・ヒューイト、エマニュエル・パユ 他)との共演
日時:令和4年5月～ 会場:県立音楽堂

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年生から高校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
石川県出身者または北陸三県在住者の中から優秀な新人を発掘し、オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏会で、ソリストとして共演するコンサートを開催する。
・オーディション:声楽部門
・演奏会:R4.5.15(管・弦・打楽器部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	258,000	255,959	260,592	50,282	114,649	157,274	

事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
一般	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
事業費累計		365,100	375,100	385,100	395,100	405,100

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和4年度は、オーケストラ・アンサンブル金沢の技術水準の一層の向上を図るため、県民に対して気軽に演奏を鑑賞する機会を提供し、オーケストラへの親しみと理解を深めるとともに、ジュニアオーケストラ等の育成を通じて、若手演奏家の音楽資質の向上に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手演奏家の育成に取り組む。